

(別紙様式)

平成21年度 学校自己評価システムシート (県立寄居城北高等学校)

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 総合学科として特色ある教育活動を展開する中で、知・徳・体の調和のとれた将来社会に貢献できる人材を育成し、地域から信頼される元気な学校づくりを目指す。 |
|--------|--|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 授業の工夫・改善を図り、生徒の基礎学力定着と学力向上に努める。 2 服装頭髪指導や挨拶運動を徹底して、規律ある生徒を育成する。 3 生徒の進路意識の醸成を図るとともに、多様な進路希望に応じた進路指導体制を確立する。 4 開かれた学校づくりを推進し、意欲ある生徒の確保に努める。 |
|------|---|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 6名 |
| | 生徒 | 3名 |
| | 事務局(教職員) | 10名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | 年 度 評 価 (2 月 2 5 日 現 在) | | |
|-------------|---|--|---|---|--|-----|--|
| 年 度 目 標 | | | | | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な能力・適性・興味・関心をもつ生徒が入学する状況の中で、生徒一人一人の学力向上を図るためにはきめ細かい学習指導が必要である。 生徒一人一人が主体的に学習に取り組むように、授業展開を創意工夫する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着と学力向上 | <ul style="list-style-type: none"> 国語、数学、英語における習熟度別指導を充実させる。 少人数クラスや選抜クラスの学習指導を充実させる。 基礎力診断テストを実施する。 授業公開や教科研修会等を推進して授業改善を図り、生徒に学ぶ楽しさなどを実感させる。 生徒及び保護者アンケートを行い、授業や本校への満足度を検証する。 | <ul style="list-style-type: none"> 成績不振者数が昨年度比20%以上減少したか。 基礎力診断テストの平均点が昨年度より向上したか。 授業公開等を年2回以上実施したか。 教育課程、指導方法等について職員研修、教科研修を2回以上実施したか。 生徒及び保護者の満足度が70%を超えたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 2学期までの成績不振者数は昨年同時期に比べ17%減少した。 基礎力診断テストの平均点が昨年度より15点向上した。(300点満点) 授業公開を1回行った。 職員研修会を2回実施した。 アンケートの結果、保護者の満足度は70%を超えたが、生徒の方は至らなかった。 | B | <ul style="list-style-type: none"> わかる授業と学力向上に向けた授業改善の一層の取組。 生徒の家庭学習の習慣化への取組。 チャイム起立・チャイム終了の徹底。 授業公開2回以上の実施。 職員研修の充実。 教育課程の工夫と改善 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 新校「寄居城北高校」として、地域からの信頼を確かなものとするためには、規律ある行動のとれる生徒の育成が必要である。 安心・安全な学校づくりを推進するため、教育環境の整備に努めるとともに、生命や人権を尊重する生徒の育成が必要である。 部活動や特別活動が活性化してきている。 | <ul style="list-style-type: none"> 規律ある生徒の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 校門、桜沢駅における登下校時の指導(服装・頭髪・挨拶励行)を徹底する。 生徒指導について逐次共通理解を図っていく。 月1回のマナー学習を実施する。 安全教育、環境教育及び人権教育等を推進する。 部活動や特別活動を一層充実させる。 ボランティア活動に参加させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 服装・頭髪の違反生徒数、遅刻の生徒数が昨年度より減少したか。 生徒指導案件が昨年度より減少したか。 交通事故、薬物乱用、人権問題は皆無だったか。 部活動への定着率が昨年度より増えたか。 ボランティア活動への参加者が昨年度より増加したか。 | <ul style="list-style-type: none"> 服装頭髪が徹底してきた。 遅刻のべ回数は昨年度比18%減少した。 生徒指導案件が昨年度比42%減少している。 交通事故等は皆無だった。 部活動が活性化され、4つの運動部が県大会出場を果たした。 JRCが「彩の国ロードサポート事業」に登録した。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」のできる生徒の育成。 生徒の規範意識の一層の向上。 本校3ない運動の維持推進。 部活動の一層の活性化。 ボランティア活動に係る地域との連携強化。 特別活動の一層の充実。 子育て支援事業等に対する積極的な取組。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実を図り生徒の進路意識の一層の醸成に努める必要がある。 1期生(現2年生)の来年度における進路希望実現のための、進路指導体制を確立していく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 進路意識の醸成 進路指導体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」の充実とインターンシップの円滑な実施を図る。 進路ガイダンス、学習ガイダンス機能を充実させる。 来年度の就職実現のための企業開拓(訪問)を行う。 分野別の指導や補習の実施など進学指導体制を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> インターンシップ依頼先での適切な評価が得られたか。 進路目標未定の生徒数が昨年度より減少できたか。 就職先企業50社以上を訪問できたか。 分野別の指導や補習の実施など進学指導体制づくりが整備できたか。 | <ul style="list-style-type: none"> インターンシップに1年次生全員を3日間参加させ、事後の発表会も実施した。 現時点で生徒全員が進路目標を設定している。 企業訪問を84社行った。 上級学校102校と連携した。 本年度初めて5科目の進学補習を実施した。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 3年次生の100%の進路実現。 計画的な進路指導及びキャリア教育の推進。 インターンシップの一層効果的な実施。 企業及び上級学校との連携強化。 進路指導体制の確立。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 本校の「地域連携型の総合学科」という特色を広く周知する必要がある。 新校完成年度(来年度)に向け、意欲ある生徒を確保するための生徒募集を展開していく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 入学志願者倍率の確保 | <ul style="list-style-type: none"> HPや学校だよりをはじめとして、情報(授業内容、学校行事、部活動等)を積極的に発信していく。 小中高連携や高大連携の積極的な活用を図る。 P T A 活動や学校評価懇話会の効果的な活用を図る。 学校説明会を工夫改善する。 中学校訪問や塾訪問を積極的に展開する。また、塾や中学校対象説明会を開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> HPを毎週更新したか。 学校だよりを月1回発行したか。 小中高連携、高大連携が十分機能したか。 学校評価懇話会・P T A の意見を反映したか。 学校説明会への参加者(のべ人数)が昨年度比10%増加したか。 入学志願者倍率が昨年度を上回ったか。 | <ul style="list-style-type: none"> HPを毎週更新した。 学校だよりを4回発行した。 小中高連携を年3回及び高大連携事業(SPP)を3回実施した。 学校説明会への参加者がのべ1082人で昨年度比9.4%増加した。 地元の中学2年生を招き体験授業を実施した。 志願倍率1.13倍を得、昨年度1.09倍を上回った。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある学校づくりの一層の推進。 本校の情報発信の工夫とP R 活動の拡充。 中学校との連携強化。 地域及びP T A との一層の連携強化。 学校説明会等の工夫と改善。 安定した入学志願者数の確保。 |

| 学 校 関 係 者 評 価 | |
|--|-------------|
| 実施日 | 平成22年 2月26日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 成績不振者の減少は、よいことである。 保護者の満足度は高いが、生徒の満足度の低いことが気になる。 職員研修会の内容が大切である。 時間を守ることは、社会に出て最も大切なことである。 家庭学習の習慣を是非身に付けさせていただきたい。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 生徒の服装やあいさつについては、地域での評判はとてよくなってきている。 これまでの遅刻指導の徹底を継続して欲しい。 遅刻防止については、生徒会が中心となり生徒自身が自覚して、遅刻防止運動を推進して欲しい。 「あいさつ」「遅刻防止」については、生徒会がキャンペーンを張ることもよいのではないか。 部活動での中高連携は有益である。今後是非お願いしたい。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> インターンシップを1年次生全員に実施していることは、素晴らしいことである。 毎日の清掃や校庭の除草活動を行うことは、企業で実施している6S(整理、整頓、清潔、清掃、しつけ、習慣)にも通じ、よいことではないか。 生徒の進路実現に向けた取組は充実している。達成度はAでよいのではないか。 1期生の進路実現こそが今後につながる。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 服装やあいさつについての評判がよい。ご近所の人や中学生は、生徒の登下校の姿やあいさつの状況をよく見ている。 HPを毎週更新していることとアクセスが1日100人あることは素晴らしい。 開かれた学校に向けての取組は素晴らしい。達成度はAでもよいと考える。 保護者あての通知が、生徒から保護者に届いていないことが心配である。工夫して欲しい。 P T A では、スクールバスの実現に向けて積極的に取り組んでいる。 | |